



①知事室
小森代議士と共に馳知事を訪問しました。



②防災訓練
いざという時には学生さんなど若い人たちの力が必要です。



③金沢泉丘高校訪問
同級生の宮本参議院議員と母校に。校長先生と意見交換しました。



④金沢市長
市議会議員を3期12年以上務めたことで表彰をいただきました。

喜多浩一 プロフィール

昭和 45 年 5 月 野町に生まれる
52 年 3 月 藤蔭幼稚園卒
58 年 3 月 森山町小学校卒
(金沢東警察署で少年剣道)
61 年 3 月 星稜中学校卒
(剣道部主将)
平成 元 年 3 月 金沢泉丘高校卒
(剣道部主将)
9 年 3 月 早稲田大学卒
9 年 4 月 今村証券株式会社入社
23 年 1 月 // 退社

平成 23 年 4 月 金沢市議会議員選挙に初当選
令和 2 年 3 月 第123代金沢市議会副議長に就任
5 年 4 月 金沢市議選挙で4期目の当選
6 年 6 月 第96代金沢市議会議員に就任
7 年 7 月 石川県議会議員選挙に初当選

金沢市泉本町に在住

資格 証券アナリスト・ファイナンシャルプランナー

国家試験合格 行政書士・宅地建物取引士

家族 妻、長男(米泉ドジャース→石川中央ボーイズ→
金沢泉丘高校野球部→慶応義塾大学理工学部野球部)、
次男(金大附属高校野球部)

ご意見などございましたら お気軽に・・・

〒920-8580金沢市鞍月1丁目1番地
石川県議会庁舎2F
会派控室
まで



フェイスブックで情報を発信
しています。ぜひアクセスを
お願いします！

石川県議会議員

Vol.43 発行・喜多浩一

喜多浩一 通信

き た こう い ち

石川県議会議員一年生として心新たに



いつもご声援いただきありがとうございます。

この度、令和7年7月に行われました石川県議会議員補欠選挙において、県議会の議席をいただきました。大きなご声援をいただき、感謝申し上げます。平成23年4月に金沢市議会議員に当選させていただいて以来14年余り、多くの金沢市民の皆様からご指導ご鞭撻をいただき、ここまで来ることができました。広坂から鞍月に机の場所が変わりましたが、市民の皆様に対する奉仕、が仕事であることに変わりはありません。これからも皆様のために誠心誠意頑張ることを改めて誓わせていただきます。

石川県議会9月定例会においては、初めての一般質問の演壇に立たせていただきました。引き続き馳知事をはじめ県執行部に対して、市民の皆様の声を届けていきますので、何なりとお気軽にお申し付けください。今回の質問内容の一部については、次ページ以降に掲載させていただきますので、ご一読ください。

この「喜多浩一通信」も43回目の発行となりました。バックナンバーについては下記アドレスにてご覧になれますので、アクセスしていただければ幸いです。

<http://www.kita-koichi.com/archive2/>

(喜多浩一)



都心軸の整備について

（喜多浩一）
金沢駅前から片町までの都心軸の整備については、具体的には金沢都ホテル跡地、金沢エムザ、日本銀行金沢支店跡地、片町四番組海側・山側地区の整備などが挙げられると思いますが、それぞれについて県市連携の観点から石川県としての今後の関わり方や支援策などをお聞きたいします。

（馳知事）
本年七月に、金沢駅東地域が国の都市再生緊急整備地域に指定されましたが、指定要件である地域整備方針の策定協議会には、金沢市長からの要請を受け、県からは徳田副知事を参加させ、多くの県の意見が地域整備方針に盛り込まれたところであります。また、今議会には指定地域の民間投資に係る県税の不動産取得税の軽減措置を定める条例案を提案しております。
都ホテル跡地については今後、近鉄グループから開発計画が金沢市に提出された後、最終的には県が高さ制限などを緩和する都市計画決定を行うこととなり、県として地域整備方針に沿ったものかどうか、しっかり確認し、判断してまいりたいと思います。
日銀跡地については、令和五年度の跡地の在り方検討会には、金沢市長からの要請を受け、県からは徳田副知事を参加させ、多くの県の意見が検討会の取りまとめに盛り込まれたところであります。片町四番組海側などの市街地再開発事業については、今後、事業の進捗に応じて国の支援に合わせた県の補助を検討してまいります。

授業料の無償化の影響について

（喜多浩一）
無償化元年の今年度の私立専願者や公立校の定員割れの状況、さらに最近話題の日本最大の生徒数を誇るN高等学校など、俗に言うネット高校などを含む県外の私立高校への進学状況も踏まえ、今後の無償化の影響についての所見や対策をお伺いいたします。

（酒井教育長）
私立高校の無償化による県立高校への影響と対策についてお答えします。令和七年度の県立の全日制高校入試では、募集定員を下回った学校数が全 38 校中 25 校となったところであります。私立高校の無償化により、公立から私立にさらに志願者が流れることが懸念されます。そうした中で、引き続き地域の高校が生徒に選ばれるためには、各校においてカリキュラム上の特色や特徴的な学校行事、部

活動など、それぞれの特色や強みに一層磨きをかけるほか、入学者の全国募集などにも取り組んでいく必要があると考えております。現在、県立高校では地元特産品を活用した商品開発など、探究活動を通じたふるさと教育に力を入れているほか、専門高校等では企業や大学等と連携し、ロボットの研究や観光ツアーの立案など、実践的な学習活動に取り組んでおります。また、奥能登の 5 校についてはワーキングを設置し、地元市町や経済界と一体となって魅力ある学校づくりに向けた検討を行うこととしております。今後とも、私立高校とも切磋琢磨しながら、生徒から選ばれる学校となるよう、県立高校のさらなる魅力向上に、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

AI の利活用について

（喜多浩一）
県の最高デジタル責任者の浅野副知事は、生成 A I を県庁に導入する現状と課題についてどう認識しておられるかをお聞きたいします。さらに、県内産業や教育機関と連携した A I の利活用や人材育成の推進など、全庁横断的な A I の利活用についてどのように取り組んでいくのかをお聞きします。

（浅野副知事）
県庁での生成 A I 導入の現状認識についてですが、令和五年の六月に職員が業務上、生成 A I を利用する際の注意事項などを示した庁内向けのガイドラインを策定しました。そして今年度からは県庁では業務支援ツールをマイクロソフト 3 6 5 に切り替え、その中で利用のできる生成 A I サービスであるコパイロットチャットを導入し、職員がより効率的で安全に生成 A I を活用する環境が整備されたところです。そうした中、職員の中では議事録などの文書の要約や、企画を練るときのアイデアを練り出していく作業などに活用している職員も出始めています。全庁的な A I 活用については、現在、県庁における業務改革や市町へのサポート、そして産業、福祉、教育、防災、様々な分野での D X 推進を総合的にまとめていく D X の推進に向けたビジョンの策定を進めております。今後は各部局がばらばらに持っている、また紙の状態で持っているデータをデジタル化して、それを職員が A I の情報処理能力を借りながら政策に落とし込んでいく。こういった新しい行政スタイルの確立が必要になってきており、全庁的な A I 活用の推進に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

